

●日興グローイング・ベンチャーファンド

(データは2012年4月27日現在)

[日興コード] 5235

[基準価額] 8,809円

[純資産総額] 68.44億円

[信託期間] 2018年7月17日

[決算日] 原則7月17日

[設定日] 2003年7月18日

<運用担当者のコメント>

◎当月の運用概況

4月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比マイナス5.86%、日経平均株価は同マイナス5.58%とほぼ月を通して下落しました。日銀の企業短期経済観測調査(短観)で大企業製造業の業況判断が市場予想に反して横ばいだったことや、スペイン国債の入札不調などから欧州債務問題再燃への懸念が高まったことなどを受けて下げが始まりました。その後もアメリカドル、ユーロに対する円高の進行、スペイン、イタリアの債務削減に対する不透明感、米国で雇用統計や中古住宅販売件数など市場予想に反する内容の経済統計の相次ぐ発表、中国の景気減速を示唆する経済指標の発表、フランス、オランダの政局不安など悪材料が重なって、月末にかけて下げ幅を広げました。東証33業種分類では、すべての業種で前月末比下落しました。

4月も積極的に企業経営者と個別直接面談調査を実施し、足元の業績や今後の成長戦略について議論を深めました。その結果を日々のポートフォリオに反映いたしました。

◎今後の運用方針

わが国の消費を取り巻く環境は改善基調が続いています。内閣府が発表した3月の「消費者態度指数」(一般世帯、季節調整値)は、40.3と2月よりも0.4ポイント改善しました。これは震災前(昨年2月)の41.2に近づく水準で、雇用や所得環境が改善傾向にある中で、消費者心理は従来よりも前向きに転じていると捉えることができそうです。小売各社の3月の既存店売上を見ましても、まだ地域差は見られるものの、全般的には震災の反動で大きく伸ばしている企業が多くなっています。さらに、各社からのコメントでも「気温の上昇と共に3月中旬から春物の販売が好調」、「時計など高額品の販売が好調」といった声も聞かれます。

3月期決算企業の決算発表が本格化してきました。株式市場では、経営環境が落ち着きはじめた中で、今後に向けてどういった戦略を打ち出すかという点に、より関心が高まるのが想定されます。もちろん、開示される表面上の数字だけを見るのではなく、その背景や因果関係などをしっかり読み解くことが重要で、決算発表直後の電話インタビューや経営者への個別直接面談調査で、一つ一つ丁寧に確認しています。今後もこうした活動を通じて、自らの強みに磨きをかける革新的な成長企業を厳選し続けてまいります。(当ファンドのマザーファンドに投資助言をしているエンジェルジャパン・アセットマネジメントのコメントをもとに作成)

<分配金込み基準価額のパフォーマンス>

	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
騰落率	10.64%	3.94%	-7.15%	21.92%	-10.73%

※基準価額の騰落率およびグラフのデータは分配金(税引前)を再投資し計算しています。

<分配金込み基準価額の推移>



※基準価額は、信託報酬(年率1.995%(税抜1.9%))控除後の値です。

<分配金実績(税引前)> (円)

07/7/17	08/7/17	09/7/17	10/7/20	11/7/19
0	0	0	0	0

<資産構成比>

株式	97.3%
うち先物	0.0%
CB	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	2.7%
外貨建資産	0.0%

※「国内株式組入上位5業種」「株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。

※「資産構成比」「株式組入上位10銘柄」の比率は対純資産、「国内株式組入上位5業種」の比率は対組入株式時価総額です。

※「分配金実績」の分配金は、1万口当たりの実績です。

※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

<国内株式組入上位5業種>

	業種	比率
1	サービス業	27.2%
2	情報・通信業	24.3%
3	小売業	13.8%
4	不動産業	7.4%
5	精密機器	6.2%

<株式組入上位10銘柄> (銘柄数 54銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	スリー・ディー・マトリックス	精密機器	3.76%
2	MonotaRO	小売業	3.62%
3	三栄建築設計	不動産業	3.56%
4	クックパッド	サービス業	3.49%
5	タケエイ	サービス業	3.45%
6	フルヤ金属	その他製品	3.42%
7	日本M&Aセンター	サービス業	3.39%
8	CDS	サービス業	3.39%
9	エス・エム・エス	サービス業	3.37%
10	スタートトゥデイ	小売業	3.12%

投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資家の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込メモ

商品分類 追加型投信／国内／株式
 お申込単位 お申込単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
 お申込価額 お申込受付日の基準価額
 信託期間 2018年7月17日まで（2003年7月18日設定）
 決算日 毎年7月17日（休業日の場合は翌営業日）
 収益分配 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。
 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。
 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
 ご換金価額 換金請求受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
 ご換金代金のお支払い 原則として、換金請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
 課税関係 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。
 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。
 ※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

■手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。
 <お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>
 お申込手数料 お申込手数料率は、3.15%（税抜3%）を上限として販売会社が定める率とします。
 ※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、お申込手数料はかかりません。
 換金手数料 ありません。
 信託財産留保額 換金時の基準価額に0.5%の率を乗じて得た額
 <信託財産で間接的にご負担いただく（ファンドから支払われる）費用>
 信託報酬 純資産総額に対して年率1.995%（税抜1.9%）を乗じて得た額
 その他費用 組入有価証券の売買委託手数料、監査費用、借入金の利息、立替金の利息 など
 ※その他費用については、運用状況により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
 ※当ファンドの手数料などの合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。
 ※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社 日興アセットマネジメント株式会社
 投資顧問会社 エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社
 受託会社 野村信託銀行株式会社
 販売会社 販売会社については下記にお問い合わせください。
 日興アセットマネジメント株式会社
 [ホームページ] <http://www.nikkoam.com/>
 [コールセンター] 0120-25-1404（午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。）

■お申込みに際しての留意事項

○リスク情報

- ・投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
- ・当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

中小型株式や新興企業の株式は、株式市場全体の平均に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

流動性リスク

市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

一般に中小型株式や新興企業の株式は、株式市場全体の平均に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高いと考えられます。

信用リスク

投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

未上場株式などの組入リスク

1) 低流動性資産のリスク

未上場会社の発行する株式など流動性の低い証券については、保有証券を直ちに売却できないことも考えられます。また、このような証券の転売についても契約上制限されていることがあり、ファンドの資金流動性に影響を与え、不測の損失を被るリスクがあります。

2) 財務リスク

未上場会社の発行する株式などは、会社の沿革、規模などの観点から、社会、政治、経済の情勢変化に大きな影響を受け易く、予想に反し、会社の業績、資金調達などにおいて懸念が生じる場合もあります。このような懸念が生じた場合、時価評価額の見直しが行なわれるため、基準価額が影響を受けることも考えられます。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

当資料は、投資家の皆様に「日興グローイング・ベンチャーファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認ください。お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は 日興アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
 加入協会：社団法人投資信託協会
 社団法人日本証券投資顧問業協会

お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	社団法人日本証券投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○
かざか証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第58号	○			